太宰府の文化財 442

「岩屋城の歴史」

市街地から四王寺山を見上げると、中腹にぽつりと突き出た平地が見えます。戦国時代の山城岩屋城跡で、豊後（現在の大分県）の戦国大名大友宗麟の家臣高橋鑑種、紹運が在城したことで知られます。特に高橋紹運が北上する薩摩の島津氏を迎え撃った天正14（1586）年の「岩屋城の戦い」は戦国屈指の激戦として有名で、紹運以下城兵約700人が散った様子は豊臣秀吉に「乱世に咲いた華のようである」と評されたと伝わります。

岩屋城は江戸時代の軍記や地誌の影響か、高橋鑑種が築城したとか、宝満城の支城だったと理解されていますが、同時代史料を確認すると文明10（1478）年に周防・長門（現在の山口県）の戦国大名大内氏の家臣相良正任が記した「正任記」にその名が見え、御笠郡支配の拠点だったと考えられます。当時、大内氏は筑前国支配を進めており、博多から筑紫平野まで見渡せる岩屋城は拠点として最適な場所でした。

また、宝満山山頂に位置する宝満城は永禄7（1564）年頃から史料上で確認でき、太宰府地域では岩屋城がもともと利用されており、後に宝満城が築かれ本格的な拠点となり、岩屋城は支城として位置づけられるようになったと考えられます。大内氏時代の天文4（1535）年には、武家故実の伝授を求めて平戸松浦氏の家臣籠手田定経が岩屋城の飯田興秀を訪ねており、単なる軍事拠点ではなく、武士同士の文化的交流もみられる場所でした。

さて、現在の岩屋城は平地となっている本丸、その下に二の丸・三の丸と続きますが、周辺も中世山城遺構が残されています。四王寺山山頂付近にある馬責は、古代山城大野城の土塁を利用した作りになり、付近には堀切も確認できます。岩屋城は大野城の一部を巧みに取り込んで作られた城郭だったと考えられます。

岩屋城は「岩屋城の戦い」の後、豊臣秀吉が九州を平定したことで廃城となりその役目を終えます。本丸跡は太宰府市内を一望できるだけでなく、晴れた日は耳納連山まで見渡せる絶好のスポットです。大内・大友時代の歴代の岩屋城主も見たであろう雄大な景色を眺めてみてはいかがでしょう。

文化財課　木村 純也

岩屋城本丸跡

岩屋城本丸跡からの景色

筑前三笠郡岩谷城図(個人蔵)

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198　太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121　FAX(921)1601　keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSのフォローお願いします！